

# 鹿児島市で患者・家族向けセミナー

## 脳腫瘍治療の 現在地知って

脳腫瘍治療の現在について、患者や家族に理解を深めてもらおうというセミナーが鹿児島市であった。約40人が、専門家による最新治療の解説に耳を傾けた。  
(税所陸郎)



鹿児島大学脳神経外科の平野宏文講師は原発性脳腫瘍の25%を占めるグリオーマなど、悪性脳腫瘍について、「周りの組織にしみ出るように増殖していくため、正常細胞との境がはっきりしない場合が多い」と、手術による除去の難しさを指摘した。

腫瘍を除去するために、鹿大では、手術部位や腫瘍の位置を把握できる「術中MRI(磁気共鳴画像装置)や、腫瘍組織に色を付けて肉眼で見分けやすくする「蛍光発色法」など

.....

悪性脳腫瘍の治療法やメカニズムについて解説したセミナー。鹿児島市のかごしま県民交流センター

## 悪性は「組み合わせ」で対応

を導入しているが、それでも完全な除去は難しい。

平野講師は「脳内の重要な神経線維を誤って傷つけどもしたら、会話や運動機能を失ってしまう。手術では可能な限りの摘出しかできないため、放射線や化学療法で補う必要がある」と、複数の治療法を組み合わせた「集学的治療」の必要性を強調した。

放射線治療について平野講師は、病変部に集中照射することで正常組織への副作用を少なくする多門照射や「サイバーナイフ」を使った治療を紹介。

薬剤に関しては、標準治療薬のテモタールのほか、今年から保険適用対象となった血管新生因子に対する抗体薬アバスタチンについて

## 新薬、療養生活もアドバイス

も「脳腫瘍に対しては非常に効果的」と評価。同じく今年保険適用された、脳内埋め込み型の抗がん剤キリアデルも取り上げた。

セミナーではこのほか、よしの脳神経外科・消化器外科(鹿児島市)の湯之上俊二院長が、放射線やアルキル化剤による化学療法でがん細胞が死滅するメカニズムについて話したほか、鹿大地域医療連携センターの医療社会福祉士石原新美さんが、手術後のリハビリテーション病院や療養型病院への入院の条件と利点、欠点など療養生活についてアドバイスをした。

セミナーは、NPO法人脳腫瘍ネットワーク(横浜市)が8月下旬、かごしま県民交流センターで開いた。